

# 大田区総合体育館ネーミングライツ

## ネーミングライツ導入の意義

- 施設名称のコミュニケーション価値に着目し、企業やブランド名を冠する対価として、新たな財源を得る仕組みです。
- 公共施設にネーミングライツを導入することで、企業等（パートナー）、区民、施設（行政）間の各々にメリットのある良好な関係構築が可能となります。

## 伝統あるスポーツの殿堂

【旧大田体育館】

- 1964年に東京オリンピックの記念事業として建設され、区民の体育振興と文化の向上をはかるため、長きにわたり多くの区民に親しまれてきました。



## 年間を通して多彩なイベントを開催

【現在の大田総合体育館（2012年リニューアル）】

- 注目が集まるプロボクシング世界タイトルマッチやプロレスイベントから、各種プロリーグ公式戦、各種国際競技・全国大会や多数の区民が集う大田区主催のイベントまで多彩なイベント会場として活用され、令和5年度実績で年間約33万人を超える利用者数を誇るポテンシャルの高い総合体育館です。



- 2012年大田区は、スポーツ健康都市を宣言し、大田区総合体育館は、大田区のスポーツ活動拠点として大きな役割を担っています。
- 現在、複数のプロスポーツチームのホーム・サブホームアリーナとして活用されており注目が高まっています。

## 高いメディアの露出度

- 大田区総合体育館で開催される様々なイベントの告知や結果など、メディア報道、SNS等で施設名の露出効果が期待できます。



【新聞報道の名称露出例】

WBAスーパーフライ級タイトルマッチ

（井岡一翔 VS フェルナンドマルティネス戦）

2025年5月10日～12日（3日間）調査

記事件数 35件 広告換算 約7,900万円（大田区調査結果より）

【施設の利用状況】

★令和5年度 333,087人

★令和6年度 127,111人（工事のため、R7.1～3月の3か月間の実績）